ずいそう

ゴーパチ国道

村　上　　誠

沖縄に来て4ケ月。海は碧く，空は広く，雲は大きく，そして料理が美味しい沖縄。沖縄そば，泡盛を堪能しつつ，地元の地理，歴史，文化を勉強中でありますが，まだまだ驚きと発見の連続です。例えば，沖縄の緋寒桜は1月に咲き始めますが，先ず北から咲き始め，南下してきます。これは，開花には暖かな気温だけではなく十分な寒さも必要だそうで，1月に寒い北部で開花が始まり，寒波が南下する2月に向かって桜前線も南下するということです。桜の開花は北上するものと決めつけていましたが，本土のソメイヨシノとの違いに驚かされます。

ところで，沖縄県は，東は北大東島，西は与那国島（日本最西端），南は波照間島（日本最南端），北は硫黄鳥島と，東西1,000 km，南北400 kmに広がり，49の有人島と1,000 m^2 以上の無人島160を有する，人口137万人の県です。その沖縄県の中心をなすのが沖縄本島で，その本島には4,000 mと3,500 mの滑走路を有する米軍嘉手納基地，第7艦隊の艦船が入港するホワイトビーチ（うるま市）等，総面積の10％を占める38の米軍施設があり，5万人の米軍人と家族が住み，日本で唯一戦後を残している島と言えます。太平洋戦争末期の1945年3月26日，慶良間諸島の座間味島等を占領した米軍は，4月1日，沖縄本島の読谷村（ヨミタンソン）に上陸，6月23日の牛島司令官の自決で沖縄戦が終結するまでの間に，日本軍と民間人で約20万人，米軍1万2,500人の尊い命が失われました。日本で唯一地上戦を体験した島，それが沖縄です。

この沖縄本島の交通の大動脈が国道58号線，愛称「ゴーパチ」で，この国道は鹿児島県鹿児島市山下町を起点に，種子島，奄美大島を通過し沖縄本島を縦断する総延長857 km，陸上部分255 km，海上部分が600 km強の南の島々を縦断するいわゆる海上国道です。今でこそ若者達に『ゴーパチ』と呼ばれ，毎年10月には数万人が参加してギネスブックにも載る那覇大綱引き（長さ200 m，太さ1.6 m，重さ43トン）の会場に使われている県民に身近な国道ですが，その起源は沖縄を占領した米軍が整備，指定した“Highway No.1”。当時は緊急時には滑走路として利用することも考慮して作られたとのことです。

琉球政府が発足した1952年には，その“Highway No.1”の国頭村（クニガミソン）～読谷村間の部分は琉球政府道一号線となりましたが，残り部分の読谷村～那覇市間は米軍が管理する軍道のままでおかれ，1972年4月25日になって軍道の管理が琉球政府に移管され，その年の5月15日に沖縄が本土に復帰してはじめて全線が「一般国道58号」に指定されて現在に至っています。

なお，その“58”という二桁国道に命名されたことについては変った生い立ちを持っています。本土復帰以前の1965年の道路法改正で，国道に一級国道，二級国道の区分が廃止されて以降，新設国道は原則三桁の路線番号が付けられることになりました。旧一級国道が居並ぶ二桁国道は1号から57号まででしたが，この「58号線」は特例として二桁国道に加えられたもので，現在，日本の国道は59号から100号まで欠番となっています。道路法が改正されてから新設された二桁国道はこの「ゴーパチ国道」だけ，ということになります。

沖縄本島内で「ゴーパチ」は，ヤンバルクイナ生息地として有名な本島北端の国頭郡国頭村を起点に，本土復帰を願って篝火を焚いた辺土岬を経て，西海岸沿いに終点地である那覇市明治橋に向かいます。その距離125 km。

辺土岬を過ぎると水平線の美しい大宜味村（オオギミソン），「美ら海（チュラウミ）水族館」を有する本部町（モトブチョウ）入口の名護市，万座ビーチやプライベートビーチが数々点在する恩納村（オンナソン），陶器工房の読谷村，基地の町の嘉手納町，アメリカンビレッジのある北谷町（チャタンチョウ），普天間基地のある宜野湾市，浦添市を通って那覇市内に入ります。嘉手納町から那覇市までは県内唯一の片側3車線となっている「ゴーパチ」は，本島内交通の大動脈として重要な役割を担っています。

――むらかみ　まこと　キャタピラー沖縄㈱　取締役――